

別紙標準様式（第7条関係）

会議録（案）

会議の名称	令和5年度第2回雇用推進事業者選定審査会
開催日時	令和6年(2024年)2月29日(木) 午前10時00分から 午後12時30分まで
開催場所	枚方市役所第3分館(旧市民会館)3階 第1会議室
出席者	中原委員(会長)、芦田委員(副会長)、海老原委員、中島委員、古田委員
欠席者	—
案件名	(1) 事業者の応募状況について (2) 参加資格審査について (3) プレゼンテーションについて (4) 採点について (5) その他
提出された資料等の名称	資料7 申請団体一覧 資料8 参加資格について 資料9 採点表 資料10 評価コメント記入用紙
決定事項	・各申請団体の採点表及び評価コメントを令和6年3月4日(月)正午までに事務局に提出する。 ・講評(案)については、事務局にて取りまとめ令和6年3月13日開催の令和5年度第3回雇用推進事業者選定審査会に提出する。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	非公開 枚方市情報公開条例第5条第1項第6号に規定する「情報の公開をしないことができる情報」に該当する内容について審議するため
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	本審査会の答申後に公表
傍聴者の数	—
所管部署 (事務局)	観光にぎわい部 商工振興課

審議内容

【中原会長】

ただ今より令和5年度第2回雇用推進事業者選定審査会を開会します。まず、委員の出席状況及び本日の進め方等について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

本日は委員5名全員の御出席をいただいております。枚方市附属機関条例第5条第2項の規定により、本審査会が成立することを報告させていただきます。次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。次第のほか、資料7「申請団体一覧」、資料8「参加資格」について、資料9「採点表」、資料10「評価コメント記入用紙」、参考資料としまして、参考資料1「プレゼンテーション進行表」、参考資料2「審査・採点の方法、考え方に係る補足説明資料」、参考資料3「採点メモ」、そのほか、事前にお渡しさせていただきました業務提案書一式でございます。また、前回の審査会において、募集要項を一部修正しておりますので、修正後の募集要項及び仕様書も本日お配りしております。書類の過不足等はありませんでしょうか。本日は、事業者の応募状況についてご報告させていただいた上で、参加資格審査、申請団体のプレゼンテーション、また、採点に関する確認等、必要な審議を行っていただく予定としております。説明は以上でございます。

【中原会長】

ただいまの説明について、委員の皆様から何かご意見、ご質問はありませんか。

<意見・質問なし>

【中原会長】

それでは、本日の案件（1）「事業者の応募状況について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、ご説明させていただきます。まず、資料7「申請団体一覧」をご覧ください。3者より参加表明書及び業務提案書の提出がございましたので、本日は、当該3者の提案に係る審査を行っていただきたいと考えています。なお、本年度、事業者からの質疑はございませんでした。説明は以上でございます。

【中原会長】

ありがとうございます。ただ今の説明について、委員の皆様から何かご意見、ご質問はありませんか。

<意見・質問なし>

【中原会長】

ありがとうございます。それでは、次に案件（2）「参加資格審査について」を議題とします。

事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料8「参加資格」についてをご覧ください。参加表明書と同時に提出された、参加資格確認書類を基に、事務局にて申請団体の参加資格を確認しましたところ、申請団体1～3いずれも参加資格を満たしていることを確認しました。説明は以上でございます。

【中原会長】

ただ今の説明について、委員の皆様から何かご意見、ご質問はありませんか。

<意見・質問なし>

ありがとうございます。それでは、次に案件（3）「プレゼンテーションについて」を議題とします。プレゼンテーションに入る前に、事務局から採点方法等について説明をお願いします。

【事務局】

それではご説明させていただきます。まず、本日のプレゼンテーションの流れについて**参考資料1**「プレゼンテーション進行表」をご覧ください。この後、採点方法についてご説明させていただいた後、10時10分から申請団体1によるプレゼンテーションを実施します。申請団体からの説明が最大20分、質疑についても20分程度を想定しております。質疑終了後、申請団体には退出いただき、5分間の休憩を挟んだ後、次の申請団体のプレゼンテーションを行います。申請団体2のプレゼンテーション開始時刻は10時55分、申請団体3のプレゼンテーション開始時刻は11時40分を予定しております。申請団体3の質疑終了後、採点に関する確認事項等について審議いただき、本日の審査会は12時30分終了を予定しております。

次に、採点方法についてご説明させていただきます。**参考資料2**「審査・採点の方法、考え方に係る補足説明資料」をご覧ください。まず、1.「審査の流れ」についてですが、申請団体から提出された業務提案書及び実施するプレゼンテーションの内容が審査項目の内容を充足しているかを審査いただき、**資料9**「採点表」及び**資料10**「評価コメント記入用紙」へご記入いただき事務局へご提出をお願いいたします。事務局にて取りまとめた結果を次の第3回審査会においてご確認いただき、最優秀提案者及び優秀提案者を決定していただきたいと思います。次に2.「審査方法」につきましては、採点表の各項目について配点内で評価をしていただくものです。項目ごとに審査内容を定めており、その審査内容の数に応じて配点しています。評価の基準としましては、1が著しく不良、3が標準、5が特に優良として、各審査内容について1～5の5段階で評価していただきます。これらを審査項目ごとに合算し、それぞれ採点表の採点結果欄へご記入下さい。また、**参考資料3**としてお配りしております採点メモは提出の必要はございませんので、必要に応じて適宜ご活用ください。次に3.「委託料について」でございますが、委託料総額の最も低い額を提案した団体の得点を満点である20点とし、その他の団体には最低価格を基準とし、そこからどの程度高くなっているかにより減点することで得点化し、事務局にて点数を記入させていただいて

おります。続きまして、資料10「評価コメント記入用紙」について、ご説明いたします。こちらは、申請団体の採点・評価を行っていただくに際し、その申請団体に関して良かった点、良くなかった点などの評価理由やさらに期待する点などについてご記入いただくものです。申請団体ごとに用紙を用意していますので、それぞれご記入をお願いいたします。最終的に、委員5名の採点結果を合計した点数とあわせて、各委員にご記入いただいた評価コメントを事務局で取りまとめ、審査会としての評価コメント（案）を作成し、次回の審査会において、皆様にご確認をいただいたうえで、公表してまいりたいと考えております。本日のプレゼンテーションでは、申請団体の提案内容等に関し、委員の皆様から事業計画書から読み取れない部分等について、ご質問をいただければと考えています。説明は以上でございます。

【中原会長】

ただいまの事務局からの説明に対して、委員の皆様からご意見、ご質問はありませんか。

【海老原委員】

採点表、評価コメントの提出期限はいつになりますか。

【事務局】

期間が短く申し訳ありませんが、3月4日(月)正午となります。

【海老原委員】

分かりました。

【中原会長】

本日は、限られた時間の中で3者の提案審査を行います。質疑については要点を絞って、充実した質問をお願いしたいと思います。進行表をお手元に置いて意識して頂きながら、委員の皆様にはご協力をお願いします。それでは、準備がよければプレゼンテーションを実施したいと思いますので、申請団体①の誘導をお願いします。

(申請団体1入室・準備)

【事務局】

それでは、ただ今よりプレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、はじめに団体名、出席者及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べ、「説明を開始します」と告げてから始めてください。プレゼンテーションの時間は20分です。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の時間になり次第、終了とさせていただきますのでご了承ください。なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。それでは、よろしくお願い致します。

【申請団体1】

<申請団体1説明>

【事務局】

それでは、会長、以降の進行をお願いします。

【中原会長】

ありがとうございました。それではただ今のプレゼンテーションに関して、委員の皆様、ご質問やご意見がある方は挙手をお願いいたします。

【海老原委員】

何点か確認したいと思います。大きく3つあります。まず、事業目的のところ、詳細な分析をされているかと思いますが、特に審査の基準として、製造業を中心とするところを挙げていますが、その辺りを事業目的や内容ではあまり強調されていませんでしたが、どのように考えておられるのでしょうか。それから、合同説明会の実施のところ、企業のPR冊子を作るとありますが、合計6回面接会がありますが、その都度作るのか、また、その冊子を誰が作るのか、企業が作るのか、もしくは御社が主導となって作るのでしょうか。最後の1点が、面接会の際に就職の相談ブースを設けると書いてあり、その際に、キャリアカウンセラーが対応するとありましたが、先程の説明ではスタッフが対応するとの説明でしたが、そこはどのような形になっていますか。この3点についてお願いします。

【申請団体1】

ありがとうございます。まず、1点目の製造業に関しましては、各実施する合同就職面接会、業界研究会、ならびに企業と大学の就職情報交換会、それぞれにおいて全てお申込み制になっておりまして、これは先着順ではなく、一定期間受付をさせて頂いた後に選定をさせて頂きたいと思います。その中で、4割以上の製造業をまずは確保した後で、その他の人材確保が急務となっている、建設事業者であったり介護事業者、運輸事業者、おそらくエントリーされてこられる事業者はこの辺りになってくるかと思いますが、基本的には製造業の企業は4割以上ということで、仕様書に定められたとおり、各プログラム、製造業を中心とした参加企業の募集を行っていきたくと、その中でも枚方市内にある各工業団地、協同組合を中心に企業募集の方をさせて頂きたくしますので、製造業に関しましては、おおむねこの事業で4割以上の確保に努めてまいりたいと思っております。

続きまして、二つめのPR冊子につきましては、全6回開催とも作成をしていきます。これは、各企業様に私どもの方からエクセルのフォーマットを送らせていただき、一度、企業様の方から情報をご提出いただきます。その中で、先程ご覧いただきましたとおり、我々は複数回において自社事業ならびに各自治体様のイベントを実施しておりますので、少し書きぶりが弱いなという企業様がございましたら、そこで少し企業様と協議の上、来場者に受けるような企業冊子を作成させていただくということなので、基本的には情報提供は企業様にいただきますが、冊子のデザインや印刷は我々の方が行います。

最後に、イベントの相談ブースにつきましては、カウンセラーの方には固定で相談ブースに入らせていただこうと思っております。それと、各イベントにおきまして企業担当というものを配置させていただきます。これは、各企業様にその当日のイベントの流れであったり等

を、イベント開催の1時間程前に各企業様に来ていただくのですが、中には初めてこういったイベントに来られるという企業様もありますので、企業ごとにスタッフがつきまして、そのスタッフが担当する企業の面談人数がイベント開催中に芳しくないということがありましたら、求職者の方に、イベント会場内を回遊するかたちで誘導させていただくと。カウンセラーに関してはブースで固定配置、うちのスタッフは会場内をぐるぐると回遊しているというイメージです。

【海老原委員】

ありがとうございます。

【中原会長】

その他ご質問、ご意見はありますか。

【中島委員】

かなり質問したいことがあるのですが、あまり時間がないので、第一に確認させてもらいたいということで、関係機関との連携の中にハローワークを入れていただきありがとうございます。ただ、今回の合同就職面接会に関しましては、6回ともハローワークが絡んでいくのか、18ページのところの分につきましては、場所はハローワーク枚方と書いていただいている分が連携になるのか、その辺はどうなのかというところと。それと、この仕様書の3ページの「7.実施場所」に今回の委託については、「事業において使用する会場について、市および関係機関からの無償提供は見込まないこと」とされているのですが、経費のところを見せていただいても、3回は旧メセナの費用が書かれていますが、この3回については費用が書かれていないので、その辺はどうお考えなのかをもう一度教えていただけますか。

【申請団体1】

この仕様に関しましては、令和5年度に枚方市様とハローワーク様が実施された実績ベースを基に記載させていただきました。ですので、おっしゃるように、1回目、2回目、4回目あたりは共催というわけではなくて、枚方市様単独であったりとか、その辺りは、実際に受託後の協議も含めまして、あくまでも計画でございますので、実施計画書は受託後に枚方市様ならびに、ここに記載させていただいておりますハローワーク枚方様との協議かなというふうに思っております。特にハローワーク枚方様のところに書かせていただいているのは、今年度実施されたものなので、次年度もおそらくやるであろうという前提でこの会場を案として出させていただきました。ですので、もう6年度はやらないということになりましたら、この事業費の中で、会場費に関しましては捻出させていただこうというふうに考えております。

【中島委員】

たとえば、求人票を作るのは、この6回の内、ハローワークと連携のところはハローワークで作らせてもらうという感じですか。それとも6回ともなのか、別の時はどうするのかを教えてください。

【申請団体1】

ハローワーク様と共催させていただく時は、基本的には求人票に関しましては、ハローワーク様にご提供をいただいて、冊子形式にするのはこの事業の中で冊子として印刷をさせていただきます。細かく言いますと、表紙等ございますので、そこはデータをお預かりして、それを印刷するのは、この事業の費用の中でやろうと考えております。ハローワーク様と共催でない場合につきましては、企業PR冊子のみでイベントを運営していく予定です。そこに関しましては、合同就職面接会となっておりますが、基本的には合同企業説明会という形式でさせていただこうと想定しています。あくまで、チラシの案の中や仕様書の中に面接会という記載が複数ありますので、面接会を前提としたご提案となっておりますが、実際、ハローワーク様と共催しない場合は合同企業説明会という形の実施になるかと思えます。

【中原会長】

委員の皆様、他にご意見・ご質問はありますか。

【芦田副会長】

オープンファクトリー事業のところを書いていただいております。参加目標者数が100人・100人となっておりますが、不器用ファクトリー側が100人を受け入れられない可能性があります。それは受託後の協議ということで問題ないという認識でよろしいですか。

【申請団体1】

はい。これは、本年度仕様書に記載がありましたが、私どもも初めてのことで、実際どれ位の人数を集客出来るのか、正直、測りかねているところです。仕様書に80人と書かれておりましたので、それをそのままトレースするのも少し野暮かと思いましたが、100名とさせていただいているところです。

【古田委員】

北大阪技専校にも触れていただいております。今回の肝なのですが、複数年度がひとつ肝になっています。データベース化を前面に出していますが、データベース化をして、7年度にどうフィードバックをしていくのかのシンプルな説明はないですか。今回の複数年度開催というのは枚方市の肝で、6ページにすぐ出しているのですが、それのまずやることとして事業の登録企業のデータベース化というのは、申し込んだ人等の名簿を作っていくとか、それはそれで良いと思うのですが、その人達に合同面接会を案内したりすると思うのですが、それとこの7年度へのフィードバックはどうなるのでしょうか。7ページの複数年度による効果向上の取組とありますが、3年生と4年生の話は分かりやすいのですが、次の年度にどういう風にやっていくのか、もう少し簡単な説明はありますか。

【申請団体1】

これは私どもの商売自体がメディアを使う会社ではあるものの、我々に各企業様が期待されているのは、やはり求職者の方の情報の量と質になります。これは、各自治体様などでデータベース化を行っているところもあれば行っていないところも、関西にも東京圏にも多く

存在しているのご理解ください。その中で、先程お話しされたように、例えば、3年生だった方が次年度は就職情報が提供出来る学生として、今度、誘致が可能になるというところがひとつメリットだと思います。今回この仕様書にも書いてある、複数年度で行うメリットに関しましては、ここに記載のある通り、切れ目のない支援と、もうひとつは、初年度で行ったことをもう少しPDCAサイクルを回していくということが、複数年間の根幹にあるという風には理解しております。その中で我々が複数年度でやる更なるメリットとしては、1年目に集めた、たとえばオープンファクトリーにだけエントリーされた方、これだけに興味関心をいただいた方に他のメニューも案内出来ます。逆に企業様も同じことでして、大学と企業の交流会だけにご参加された企業様に対して他のメニューが案内出来ます。今までもそれは行われていたかもしれませんが、それを、情報をプールしていくので、令和8年度、令和9年度と、ずっと多く増やしていく。この2年度で終わるというよりかは、この先の年度もずっと、求職者情報と企業情報をプールしていくことで、リストがどんどん潤沢になっていくというイメージでございます。

【古田委員】

と言うことは、令和8年度、9年度にも、一度作ったデータベースを枚方市に提供していただけるということですか。

【申請団体1】

おっしゃるとおりです。その時は学生だった方が卒業して、少なくとも全員が全員、枚方市の企業に就職するという事はかなり考えにくいことですので、学生を卒業して枚方市外の企業に就職はしたけれども情報は受け取っていいという方がもし残った場合、既卒向けのイベントを令和8年度、令和9年度、令和10年度とやる時にあらゆる情報を、その代わりエントリーをいただく際に、プライバシーポリシーとして、この事業ならびに枚方市、関係機関が執り行う就職に役立つ情報を今後も提供し続けるというアグリーはもちろん確保しておかなくては行けません、そういう条件で各事業にエントリーをしていただくという想定はしておりました。

【古田委員】

データベースと言いますが、言ってみればプロなので、学生のデータというのは持っておられるのは分かりきっているので、私が言っているのは、書いてあるとおり、枚方市内の製造業に入ってもらうためにどうするのかというところが、今、肝であるわけですね。そして2ヵ年であるわけです。その辺のことについては、どの辺りを読んだらいいのでしょうか。募集やチラシを撒くのは北大阪商工会議所とか枚方関係の方ばかりなので、見に来るのは枚方の方で、参加するのもそうだと思うのですが、今たくさん持っている学生のデータについて、枚方市内の製造業に特に就職してもらうための施策が見えにくい部分があるなと思いました。データベース化は、まずうちの目的である枚方市の製造業をターゲットにしておいて、こういう事というふうになるのかなど。数字も入れておられますので、駄目だった時はPDCAを回すということなのでお任せしますが、そこが見えにくいという風に思いました。データベースはもう十分に持っておられる会社なので、そこまで主張しなくてもいいのでは。枚方市内にある製造業の中小企業に、極端に言えば、泉佐野や京都の山奥の学生でも

来てもらって入ってもらえるようにいかに誘導するのかなど。もちろん近隣に住む学生や若年層は来てもらった方がいいのですが、データベースがそこまで複数年度の効率化になっているかどうかというのは、イメージとしては持てなかったなということです。

【中原会長】

今の点について、何か補足でおっしゃりたいことはありますか。

【申請団体1】

これは実際、私どもの商売としては、新卒学生の時に学生のデータを一気に確保します。これは他社も一緒の仕組みなのですが、新卒の時に登録をして頂く、この時は、どの会社に行きたいとかどこで働きたいとか分からずに登録している学生が非常に多くいらっしゃるということだと思います。なので、40万人のデータがあったとしても、この人が枚方市に興味がある、この人が門真市に興味があるといったところまでは、私どもは知りえないところです。なので、枚方市がやる各種就労支援のイベントであったりだとかの情報をアナウンスする、特に関西2府4県の大学等にももちろん協力を依頼する、そこで、その世代の枚方市内の製造業に興味のある学生が出てくる。その方々をせっかく集めたのであれば、これを単年度で手放してしまうのは非常にもったいない考え方です。1年間でリセット、またリセットとなっていくのではなく、持続的に求職者データベースとして保有し続けることで、その方が何かのきっかけで転職されるとか就職活動を本格化されるとなった時にも、情報提供をし続けることで、またこの枚方市が主催する就労のイベントに行ってみようかなと思うきっかけ作りが出来るのではないかと考えております。

【古田委員】

今の説明は非常に分かりやすかったです。

【中原会長】

もうひとつ程度、他にお聞きになりたいことはありますか。

【中島委員】

求職者情報などはハローワークが持っているものは情報提供出来ませんが、それは独自にされるということですか。

【申請団体1】

もちろんです。枚方市事業の登録者のデータを事業として管理していきますので、ハローワーク様の個人情報等をあてにしているということはありません。

【会長】

ありがとうございました。それでは時間となりましたので、これをもちましてプレゼンテーションを終了します。お疲れ様でした。

(申請団体1退出)

(申請団体 2 入室・準備)

【事務局】

それでは、ただ今よりプレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、はじめに団体名、出席者及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べ、「説明を開始します」と告げてから始めてください。プレゼンテーションの時間は 20 分です。終了 1 分前になりましたらベルでお知らせし、所定の時間になり次第、終了とさせていただきますのでご了承ください。なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。それでは、よろしくお願い致します。

【申請団体 2】

<申請団体 2 説明>

【中原会長】

ありがとうございます。それでは今から委員の皆様からご質問やご意見をいただくのですが、皆様、お聞きになりたいことがかなりたくさんあり時間が無くなってしまふことが多いので、質問いただく側もお答えいただく側もなるべく端的にお願いします。それでは皆様、ご意見・ご質問をお願いします。

【芦田副会長】

2 点あります。まず 1 点目ですが、仕様書にオープンファクトリー、不器用ファクトリーとの連携という話を書いてあったと思いますが、提案書の中に書いてありませんでした。今年、枚方市の別の事業で求職者向けのオープンファクトリーを実施するのですが、実施運営自体はそちらの団体がするので問題無いのですが、学生を集めるための周知、告知というところをお願いする形になると思います。それはここには書いていない範囲なのですが、それは出来るのかということと、やるとするならばどういう方法でやるのかということを教えてください。

【申請団体 2】

ありがとうございます。提案書の中に含めておらずたいへん恐縮なのですが、広報策といったしましては、併記の見積書の中に含めております。今回記載の 13 ページ以降の広報手法をもってオープンファクトリーの広報も進めてまいりたいと考えております。具体的には、SNS の広告、WEB、グーグルの広告、さらには就職情報サイトへの広告出稿といったところで、このように費用をかけて行っていくことを企画しております。

【芦田副会長】

ありがとうございます。あともう 1 点ですが、21 ページでご説明いただいた学生の市内ものづくり企業への就職意欲向上施策についてですが、製造業の魅力発信ということで、働く

現場を生中継というところで、この生中継をするのは誰がやることになっているのでしょうか。

【申請団体2】

これは、我々が行ったことがある事業をベースにお話をさせていただきますと、全ての企業様にご承認いただけるわけではないのですが、実際に生中継にご同意いただいた企業様には、現場にWEBカメラを我々の方で設定させていただき、現地の企業ブースにはモニターを設置させていただいて、そこでリアルタイムの生中継をさせていただくような形を想定しております。

【中島委員】

関係機関ということでハローワークの名前を出していただきありがとうございます。今回、7ページ、8ページのところで、特に8ページのハローワークの登録目標100名ということですが、求職登録をしていただく方が100名ということは、このデータ自体はどういう取り扱いになるのかということと、その下に先着100名でEラーニングについて、これは、ハローワークに登録した方がEラーニングが出来るという流れが、ハローワークの関係性で個人情報関係もありますし、今度ハローワークで登録したらそれが出来ると思われるのもどうかということもありますので、その住み分けのところをはっきりと教えて頂きたいと思います。それと19ページの合同面接会以降のところですが、これは、求人自体はどこで作ることになるのでしょうか。

【申請団体2】

1つ目にいただいたご質問で、ハローワーク様の登録者目標のところですが、こちらについてはご採択いただきましたら協議の上になるかと思いますが、今回我々が提案致しますオンライン学習システムの提供、こちらの受講資格として、もしこのオンラインを使われたい方に関しては、条件としてハローワーク様の求職登録をまずひとつ付与するであつたりとか、このEラーニングを受けるにあたっていくつか条件を付与した上での設定にしたいと考えております。求職登録をしながらこの事業に賛同いただく方といったところを募集して、ハローワーク様の求職者も増やしつつこの事業の参加者も増やしたいというような意図で、今回の企画をさせていただきました。19ページの合同面接会の求人作成につきましては、我々の方で作成をいたします。出展お申込みをいただいた企業様との調整にはなりますが、我々の方で求人票の定型フォーマットを用意しておりますので、そちらを企業様にご記入いただきまして、最終的なリーガルチェックであつたりにつきましては、社内および、ハローワーク様との連携の中であればハローワーク様にもご確認をいただいて、作成を進めていきたいと考えております。

【中島委員】

そこはハローワークの求職者は紹介状とかは必要になるということはないということですか。

【申請団体2】

そうですね。紹介状の有無につきましては原則無しで考えてはおりますが、昨年以前につきましては紹介状がある合同面接会もあったかと思っておりますので、こちらは協議の上で適切な形で進めていきたいと思っております。

【会長】

その他、ご意見やご質問はありますか。

【海老原委員】

私から3点程あります。ひとつは、まず最初の現状分析の中で、枚方市の現状として色々な分析をされているのですが、その中で製造業企業が不人気な業種であって、魅力アップが必要であるという分析があったと思いますが、それを受けてこの事業計画を見ていますと、その分析がどこに反映されているのかというのが分かりにくかったです。内容で非常にウェイトを置いてらっしゃるのが、周知広報の部分であるとか、専用のWEBサイトを立ち上げるといったところがあったと思いますが、そちらの方でそういったところをフォローをするということなのか、それとも、合同面接会の前での事前の企業に対するセミナーと、それと、参加者の学生に対するセミナーをその都度されるということでしたが、その辺でフォローされるのか、その辺が分からなかったのもう一度端的に教えて下さい。それともう一点、「人財採用セミナー」というロゴの「財」という字を、材料の「材」ではなくて財産の「財」をつけてらっしゃるのは、何か意味があって付けておられると思うのですが、そちらのお考えも教えていただけますか。

【申請団体2】

まずひとつめにいただきました事業全体のスキームにつきましては、まとめております7ページをご覧ください。現状の分析のところから、なかなか紐づけを簡潔にご説明出来ず申し訳ありません。まず企業様の考えといたしましては、冒頭に申し上げました、有効求人倍率のところであったり、不人気な職種というのは一定数存在するということは分析の中から把握しております。ただ、プラスの面で捉えていただく面も多くあるかと思っております、昨今の賃上げを予定している企業が一定数存在することであったりだとか、実際に求職者が希望する賃金を上回る条件設定をされている企業様も多くいらっしゃると思います。そういった点を周知広報のところでもまず露出をさせていただくこと、加えまして、おっしゃっていただきました求職者向けセミナーのところで、こんな企業が枚方市内にはありますよ、製造業においてはこういった強みであったり魅力があるといったことを存分にお伝えいたしまして、面接会につなげていくというところを想定しております。

ふたつ目の企業向けセミナーにつきまして、人財の財とう字が財産の財になっておりますのは、どの規模のところもそうなのですが、企業はやはり人が一番要かなというところから、財産という考えで敢えてこの漢字を使わせていただきました。また企業向けのセミナーの中でもそうなのですが、よく聞くのが、人手が足りないからとにかく欲しい、若い人が欲しい等とすごく漠然としていらっしゃるケースが多くて、やはり使い易さだけではなく、しっかりと定着していただかないと意味がないと考えておりますので、まずどんな人材が欲しいのか、一から十までのことを全部出来る人がいればいいですが、それはなかなか難しいというところもありますので、その中で優先順位をはっきりする、何が出来る人を求めるのか、そ

して、自分のところで、どういったことが協力出来るのかとか、また、今いらっしゃる従業員の方達とのバランス、兼ね合い、またその中での雰囲気作りですとか環境作り、そういったことがとても重要になりますので、ただ人を採用していただくというだけではなく、その先を見据えた採用の仕方というところで、セミナーをさせていただきたいと考えます。そして求職者の方も、人気が無いからやっぱりやめよう、応募さえすればいいということではなく、やはり働きがいであるとか、人生の長い期間のキャリアステージを考えていただかなくてはいけないので、そこに注力したセミナー、そこを外した、ただ履歴書の書き方、職務経歴書の書き方、面接の受け方だけでは本来の就労支援の役割を果たさないと考えますので、そこに重点を置いてセミナーの方はしていきたいと思ひますし、内容詳細につきましては、ご採択の後に協議させていただければと思ひます。

【古田委員】

私からも質問です。今回の肝は2ヵ年での発注なのですが、どこを見たら2ヵ年でやることの効率化、効果的なことについて読み取れますか。これだと1年で終わってしまいますので、単年度事業で十分かなと思ひます。それともう一つの肝で、学生の就職意欲を向上させて就職後の定着につながる環境作りを促進させる支援を行うことというのは、どのページのどこになりますか。取り合えず、2ヵ年のことが全く載っていないので、そこら辺について特化して説明していただけますか。

【申請団体2】

2ヵ年事業になるということで、これまでは単年度で実施をされていたと伺っておりますが、まず我々の企画が前回業者様と一部乖離している部分であったりだとか、広報の仕方ひとつを取っても違うところもあるかと思ひます。これから初年度になることに切り替わりまして、我々、いったんこの計画で進めさせていただきまして、最終的には、定期打合せのところにも簡単には記載しておりますが、事業を行って、広報のひとつをとっても、どんな実績が出たのか、募集もどんな形で応募が伴っていったのかといったところを、経年的な実績をまとめてご報告させていただきながら、翌年度に向けては、それを打合せの議題となるように報告書をまとめていきたいと思ひます。

定着につきましては、こちらは企画書に書いておりませんが、オンライン学習システムを今回ご提供させていただくにあたりまして、それを受講している受講者様が就職をした後、OJTに活用いただけるように企業様のアカウントも発行させていただくことがよくあります。それが、定着支援の一環としてご提案をさせていただきたいと思ひているひとつでございます。その他につきましても、枚方市様が思われる定着支援の方向であったりだとか、我々の思うところ、それぞれありますので、そういったところは協議の上、2ヵ年という時間の中で有意義な事業となるよう進めて参りたいと思ひます。

【中原会長】

まだ5分程の時間がありますので、他に質問がある方はいらっしゃいますか。

【中島委員】

よろしいですか。まず5ページのデータのところですが、職種別有効求人倍率であったり

だとか、職種別・年齢別求職者数であったりというのは、このデータベースはハローワーク枚方の分になりますか。

【申請団体2】

はい、おっしゃるとおりです

【中島委員】

では、枚方市というよりは、交野市、寝屋川市も含めた求職者数であったりということになるということでしょうか。

【申請団体2】

はい。この検出元が、バランスシートであったり統計データからまとまっている数値を引っ張らせていただいております。

【中島委員】

三市合同の分ということですね。あと、11 ページなど、ホームページを色々作られるということで書かれていますが、ホームページを作るというのは、どこに作るのでしょうか。枚方市役所のホームページの中に作るのですか。

【申請団体2】

事業独立で作らせていただきます。

【中島委員】

そこへ見に行く人を作るのはどうやって作るのですか。

【申請団体2】

よくある周知広報の流れとしては、まず広報媒体であるホームページとチラシを作成させていただいて、それを周知広報施策で企画させていただいている、各種広報で展開をしていくという流れになります。

【中島委員】

その広報については、ハローワークでもしていくという形になるということですか。

【申請団体2】

ご協力依頼をさせていただく具体的な内容としては、作らせていただくチラシの配架であったりだとか、そういったところをお願いさせていただきたいと考えています。

【中島委員】

分かりました。さっきお聞きしたことでもう一度確認だけなのですが、ハローワークでは求職登録は推進するけれども、求人票を作るのは御社の方であって、今のところですが、紹介行為なども全てハローワークは基本しないということで、求職登録だけハローワークと連

携していくという形でよろしいですか。

【申請団体2】

おっしゃるとおりです。

【中島委員】

ありがとうございます。

【中原会長】

その他ご意見、ご質問よろしいでしょうか。では私からよろしいでしょうか。先程、古田委員が聞かれた2ヵ年であることでより効果が上がるというところのご回答が、私には少し曖昧だったと思うのですが、今回、仮に受注された時に初めてであるからというところはあまり関係は無く、単年でやるか複数年でやるかで、複数年でやる場合に単年と比べてどうい実効性を持たせるかという問い掛けの部分なのですね。ですので、今やられている方が複数年だかどうかという話ではないという趣旨なのですが、その趣旨を踏まえて、補足でお話しいただけることはありますか。

【申請団体2】

我々も就労支援事業を手掛ける中で、やはり単年度事業が多いことによる課題として思っているのが、支援対象事業者、この事業に賛同いただく求職者の方が集まったとしても、結局、年度末に消えてしまう。勿論リファーをする先、ハローワーク様であったりサポステ様によってリファーすることはあるのですが、2ヵ年の計画であるから、年度の当初にこの事業に賛同いただいた求職者の方、就職が決まらなかったとしても翌年度も継続してサポートが出来るというところは、この2ヵ年事業のメリットというふうに考えております。まずひとつは求職者支援・サポートのところで、2ヵ年継続して、就職が決まらない対象者の支援を継続して行えるというところはひとつメリットとして捉えておりますし、そのフォローというところは進めて参ります。

【古田委員】

それはそうなのですが、私が思うのは、これは1×2なのです。私達は2で出しているのです。2で出すということは、1から2への過渡期が肝なのです。やってみて、仕切り直してやってみるというのではなくて、それを見通して一番効果的な方法は無いのかというところを提案して欲しいということです。どうしても1×2に見えてしまうのは見えてしまうというのが、私の意見です。

【申請団体2】

本事業ではなく、これまで委託させていただいていた事業の中でも2ヵ年ないし3ヵ年という事業が、金融機関であったり自治体様であったことはあったのですが、やはり初年度というのはなかなか手探りの部分が多かったりするのですが、年度途中から色々なことが課題として出てきます。たとえば企業様に対するアプローチの方法も勿論そうですし、求職者の課題であってもそうなのですが、色々な改善点が次から次に順次出てくるというところがあ

りますので、そこを、枚方市様、ハローワーク様と協議をしつつより良いものにしていくという流れの中で、単年度で終わってしまうとどうしても尻切れトンボになるところもありますし、ここは改善出来るのにとという部分が中途半端に終わったりしますので、やはり、2年というスパンでさせていただくことで、1ヶ月前よりも3ヶ月後というふうにどんどん改善していけるという点が、これまで長期でやらせていただいたものでは、一番効果が出たところではございますので、そういうものを十分に吟味して取り組んでいきたいというふうを考えております。

【中原会長】

ありがとうございました。それでは時間となりましたので、これをもちましてプレゼンテーションを終了します。お疲れさまでした。

(申請団体2退出)

(申請団体3入室・準備)

【事務局】

それでは、ただ今よりプレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、はじめに団体名、出席者及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べ、「説明を開始します」と告げてから始めてください。プレゼンテーションの時間は20分です。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の時間になり次第、終了とさせていただきますのでご了承ください。なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。それでは、よろしくお願い致します。

【申請団体3】

<申請団体3説明>

【中原会長】

ありがとうございました。それでは、ただ今のプレゼンテーションに関して、委員の皆様、ご質問やご意見がある方は挙手をお願いいたします。

【海老原委員】

本日はありがとうございました。私からは、こういった事業をたくさんなさってこられて、計画なども練られていると思うのですが、枚方の分析の中で、枚方独自の問題、枚方が特に製造業について人材がなかなか集まらないという問題であったりだとか、そういったことを踏まえて、他でこういった事業をなさることと、今回のことと、ちょっと工夫をされたところですね、違うところはどこかを教えてくださいませんか。

【申請団体3】

工夫したところと言いますか、特に合同面接会で、今年度ぜひやりたいなと思っているのが、この学生団体との連携というのが7ページに記載させていただいていたかと思いますが、今回特に製造業というところで、製造業だけを呼ぶのかというところが分かりかねるところがあったので、そこを強くは出させてはいただいているのですが、この学生団体との連携のところで、もし可能であれば、学生団体というだけではなく、ゼミの先生方にもお声掛けをさせていただいて、特に製造業の場合は、大学の中で学んでこられた技術の部分であったり、学部にも、どういうことを勉強されてこられたかというのも含めてつながってくるところがあると思うので、いわゆる企業様が、こういうことを勉強されてこられたというようなところの、ジャンルごとにそういったゼミの先生方などにお声掛けをさせていただいたりするというのが、少し必要なのかなというふうには考えております。特に、技術者のような方を募集したいというご要望があるのかなというふうには考えておまして、そこは連携をさせていただいて、広くどんな方でもというような方策ではなくて、逆にいったん製造業に尖った形で実施をさせていただくのであれば、そのような方法を、学校には広く告知はしますけれども、工学部やそういったところを持っておられる学部・学科に強く入り込みをして集客を図るということは出来るかと思えます。

【海老原委員】

そういったネットワークをお持ちだということですか。

【申請団体3】

直接、今の関わりというところではキャリアセンターが多いのですが、学内に入らせていただいている中で、就職委員の先生方ですとか、学部の各窓口があって、そこへ行けばアプローチは出来るというところまではこちらでは理解しておりますので、アプローチすれば可能かなというふうに思っております。

【海老原委員】

それは、枚方だけというような大学ではなく、色んな近畿の大学ネットワークがおありになるということですか。

【申請団体3】

全てというわけではないのですが、3ページの上側に記載させていただいているのですが、弊社は大学事業部というのがございまして、キャリアセンターを通じて学部の中でもそうですし、キャリアセンターの学内講座を実施させていただいている中で、工学部の先生方ともつながりがあったりする者もおりますので、また、キャリアセンターから学部にお声掛けを入れていただくことも、交渉次第ですが、提案は可能かなと思えます。

【中島委員】

色々と連携をしてというところを書いていただいております。細かいのですが、4ページのところで、枚方市の雇用環境情勢というところの、まず枚方市の有効求人倍率と書かれている部分については、下の出典はハローワークの有効求人倍率と書かれているということは、交野市、寝屋川市もうちの管轄になっているので、それも含まれた内容という

ことよろしいですか。

【申請団体3】

はい。

【中島委員】

その有効求人倍率の推移の下の出典の資料のところですが、「ハロワのいろは作成」というのは、これは何なのでしょう。その前の労働市場月報というのは確かにうちでやっている内容ではあるのですが、その出典がよく分からないと思ったので、分かれば教えていただければと思います。

【申請団体3】

申し訳ありません。こちらのページを私の方で担当していなかったため、確認がきちんと出来ておりませんでした。

【中島委員】

分かりました。あと特に聞きたいのが、8ページなどに合同面接会を書いていたのですが、スケジュールの案のところでは一番下には「合同企業説明会」とか、先程も説明の中で合説という言葉が出ていたかと思うのですが、実質は面接会をされるという形よろしいですか。

【申請団体3】

はい、面接会をさせていただくという形になります。

【中島委員】

面接会の求人は6月ということになりますか。

【申請団体3】

枚方市様との確認はさせていただかないといけないと思うのですが、通常はハローワーク様に確認を取らせていただくのが流れではあります。出しておられるとか、事前に面接会のものをハローワーク様にも出していただいて、冊子にするという流れになるのかなとは思いますが、新卒の方に関しては個々の企業の準備担当者の方から、新卒向けの求人内容をお伺いしまして、こちらの方で出させていただくような対応になるかと思えます。

【中島委員】

新卒の方についてのフォーマットはそちらのフォーマットでされて、一般系の面接会の求人票はハローワークの求人票になるのですか。

【申請団体3】

いえ、求人フォーマット自体はもちろんこちらでお作りするのが多いのですが、ハローワーク様の方に出されているものを使っても問題無ければいいのですが、基本的には冊子と

してのフォーマットを弊社でも持っておりますので、それに嵌めたものにさせていただきますが、

【中島委員】

どの企業から出してもらうか等は、広報など色々あって、その中にハローワークというのもあったのですが、今回、委託事業でありますので、御社に特化した、ハローワークにも出ていないような会社から、特にものづくりというようなところからの出展を考えていらっしゃるかどうかというところなのですが。

【申請団体3】

基本的に、ハローワーク様に出てる出てないというよりは、企業様を募集させていただいて、その選定については枚方市様とご相談はさせていただいた上で、その企業様の求人をフォーマットに嵌めた形でさせていただきたいと思います。労働局様との事業ですと、必ず事前に労働局様にも求人を登録して下さいという形になりますが。

【中島委員】

面接会において共同でする場合についてはそうですね。今回はハローワークとの共同は特には考えていらっしゃるということによろしいですか。

【申請団体3】

絶対というところでは考えておりませんが、もちろん枚方市様とのお話で、やはり共同して、関係性として、本来はやらせていただく方がいいのかなと思いますので、させていただくということであれば、もちろん事前に登録いただいたものを冊子にしてという形でさせていただきます。

【中島委員】

分かりました。あと、細かいですが、15ページの人員体制のところの、下から二つめのコーディネーターの方ですが、この方はハローワークで勤務されていると書かれていますが、現職ではないということですか。

【申請団体3】

いえ、現職ではありません。以前に神戸のハローワークにということですが。今は弊社にあります。

【中島委員】

分かりました。ありがとうございました。

【中原会長】

その他、ご意見やご質問はありますか。

【芦田副会長】

ご提案ありがとうございました。12ページのオープンカンパニーのところですか。やっていただくことは面白いのかなと思いますが、実施する時にどういう実施のされ方をするのかというのが気になりました。企業側でズームの機材だったりを設定するのかということと、あと、工場見学ということも含めてやる形になるのかなと思うのですが、そういった時も、動き回らなければいけない場合の時に、どうしたらいいのかとか、御社でサポートいただけるのかをお伺いしたいです。

【申請団体3】

今回、企画のところでは、まず、オンラインで実施することを検討させていただいたのは、今の学生さん達は、たくさん情報がある中で少しずつふりかけをしていくというようなところでして、一番初めから現場に飛び込んで体験をするというよりは、たくさん情報の中から自分にはこれだと思えるものに対して、初めて時間であったり体力であったりかけていただくことが多いのかなという風に考えましたので、オンラインを実施させていただきたいと考えております。まずはたくさん情報に短時間で触れていただく、実際にはオープンカンパニーと業界研究会というところで、まずは色々な企業を見ていただく。ズームで実施であれば、各個別の部屋に入らせていただいて、そこで企業様の説明や動画であったりとか、どちらかと言うと、ライブ配信でその中を動き回ってというよりは、資料をまずは見ていただいて、過去の動画であったりとか、もし動き回って撮るのであれば事前にそういったビデオを撮っていただいたものを見ていただいたりとか、そういう感じで企業のご紹介をしていただいたりお話をさせていただいたり、先輩の方から講和をしていただいたりという時間を設けて、それを見てもらうという風にしたいと考えています。ただ、その後、実際にオープンカンパニーに参加したいかどうかというのをきちんとアンケートなどで取って、もし希望があれば、しっかりと企業様とつながらせていただいて、その時に行っていただいたりとか、そういう風につないでいきたいと考えております。

【芦田副会長】

と言うことは、機材等の準備は全て企業側でしていくというようなイメージですか。

【申請団体3】

基本的にはそのように考えておりますが、場合によってはこのオンラインは、梅田にあります弊社の中で、パソコンを全て企業様分を準備をさせていただくことは十分対応が出来るかなというふうに思います。

【中原会長】

他にご質問はありますか。

【古田委員】

今のオープンカンパニーはいいのですが、仕様書の中の枚方市のオープンファクトリー事業への参画というのは、それは具体的にどこに載っているのでしょうか。それと、具体的に提案をと出した、仕様書の中に、学生等の就職意欲を向上させ、就職後の定着につながる職場環境づくりを促進させる支援を行うことと書いていますが、それもどこに書いているのか

ということ。それから、20 ページの、これはきっちりとPDCAを回すと書いているので評価出来ると思いますし、事業毎にしっかりとアンケート等で評価をされると思うのですが、それについて21 ページのスケジュールの各項目毎の一番下に、アンケート集計・報告書作成とありますが、そこを見て、次、どこに活かすのでしょうか。逆に言うと、合同面接会の実施というのが7月に開催されて、下にアンケート集計・報告書作成というのがありますが、7月中とか8月初旬に評価したものを、どの時点で、たとえば翌年度の7月に活かすのか、この年度の3月に評価するのか。せっかく評価されたのであれば、すぐさま改善に向かうべきですが、CAをやっていただいて、PDをどこでやるのかなど。CをやってAをやっていただくのですが、次のPをどこに反映させるのかと、時期の話です。せっかく2年事業なので、見直しをしていただくのはいいのですが、その見直しは、場所を変えとかだと思ってしまうのですが、せっかくここまで考えているのであれば、それをPDに直す時の方法ももう少しあった方が良かったと思いますし、そこはどうお考えでしょうか。

【申請団体3】

まずオープンファクトリー事業についてですが、企業様と調整させていただかないといけないのですが、周知・広報というところで、しっかり周知の方はさせていただきたいと考えています。

定着支援についてですが、弊社の方で記載がされていませんでしたが、基本的にこの事業自体が就職・定着を図っていくということで、事業のマネージャーの方も経営コンサルタントを持っている者を配置予定ですので、参加者の方に次のイベントへの参加も含めて意欲的なアプローチを行い、いったんご参加いただいた方に関しては、定期的に、今の就職状況ですとかそういったところを、定期的に電話やメール、必要によっては郵便でご連絡して確認し、定着支援の方法についてはそういったものを、2年事業ですので、就職と定着といったところも、1年目の方についてはさせていただきたいと考えております。それに合わせて、企業様の方のセミナーも1回させていただくことで、定着の、やはり環境面ですね、特に今の若年者の方というのが、企業様の中の労働時間の問題ですとか、上司とのコミュニケーションであったり、それから、賃金の条件といったところについても非常に敏感になっておられるので、受け入れる企業様側のところも重要であると考えておりますので、企業の皆様の受け入れ体制の構築といったところで、11 ページに1回以上と記載させていただいておりますが、3回位であれば問題無く実施はさせていただけると思っておりますし、受け入れ態勢の環境整備といったところのサポートをセミナーでさせていただくことが出来るかなと思っております。

それから最後、PDCAの部分ですが、確かに3回ということで期間が短くて、出た結果をすぐに8月から反映できるのかという感じに見えるとは思いますが、もちろん課題点、問題点については市と話し合いの上、すぐに改善は随時図っていきたく考えます。事業としての総括というところではなく、1回目の集客の問題、満足度の問題等、そういったものは随時改善は図っていくつもりでございます。

【古田委員】

あと、21 ページのスケジュールのところの4番目で、「就職支援フォロー、就職状況調査」とありますが、これは何をされるのでしょうか。具体的に記載がありましたか。

【申請団体3】

申し訳ありません、こちらについては記載がありませんが、先程お話しさせていただいたように、状況の確認を積極的に行っていきたいと考えております。

【中原会長】

最後に一点だけ、端的にお答えいただきたいのですが、14ページの体制のところ、各企画に運営スタッフが何人とか、どのように人員が割り当てられるのかイメージが湧きません。下のところに100名越えの事業部門があってと書いていただいているのですが、この方々全員をこの企画だけに充てるわけではないと思いますので、たとえば合説にはスタッフ何人を充てられるのかとか、その辺りはどこかに記載されているか、前におっしゃっていただいていたか。

【申請団体3】

この事業の体制としましては、15ページに記載しております運営マネージャーは、これは兼任でございまして、全体の事業の運営・管理を行う者が1名。それから、14ページの上側の赤い部分ですね、こちらに記載している、事業責任者1名、コーディネーター1名というのが専従で関わる人員になります。事務員・本部スタッフ（非常駐）という風に記載させていただいているのですが、イベントごとに必要な人材数につきましては、弊社の本部の方から人材を配置させていただきますので、10名なり、必要な人数というのは想定しております。

【中原会長】

例えば対面の合説でしたら何人位とか、そういったことはどういうイメージでおられますか。

【申請団体3】

企業様の合説の場合は、相談コーナーを別室に設けるのかとかレイアウトにもよって少し変わってきますが、当日の運営人員については、本部からだいたい10名や8名単位で、規模に応じて柔軟に必要な人員数は配置させていただくということでお約束出来ると思います。

【中原会長】

ありがとうございます。それでは時間となりましたので、これをもちましてプレゼンテーションを終了します。申請団体の方は、ご退室ください。

(申請団体3退出)

【中原会長】

この後、事務局から採点について説明していただくのですが、現時点でみなさん何か聞かれないことなどありますか。

(質問なし)

【中原会長】

私から1点確認なのですが、2ヵ年についての説明がプレゼン資料に無いことですが、前回もこういったことがありまして、プレゼンで説明されても採点に入れられないというルールだったと思います。募集要項の6ページの(エ)のところで、業務提案書に追加と判断出来る説明については審査の対象としないとあるのですが、採点にあたって、申請団体2の方は複数年度に関する事について書かれてなかったと思うのですが、補足で質問して答えていただきましたが、この5点は入れられないという理解でよろしいのでしょうか。点を入れられるかどうかはここで共通認識を作っておかないといけないと思うのですが、この5点分はこれはもう入れられないという理解でいいのでしょうか。

【事務局】

募集要項の中にもこう書いていますので、採点としては5段階で1点から5点まで、その複数年度の部分で提案資料から読み込めない場合は、著しく不良という判定になってくるのかと思います。

【中原会長】

1点は入れられるということですか。

【事務局】

各項目1点から5点になりますので、0点は無いとしております。

【古田委員】

追加の説明は反映させないということですね。反映させない＝書いていないのですから、1点ということですね。

【事務局】

全て提案書の中でどこまで読み取れるかというところですね。

【古田委員】

提案書に載っていないけれど、質問をしてそれなりの答えがあったとしても、その答えは考慮出来ない、提案書に載っていないから著しく不良の1点ということですね。流れとしては。

【事務局】

流れとしてはそうなります。

【古田委員】

まず書いていないから聞いたわけですが、書いていないから質問すると、そこで、この書き方が我々にとってはそうなんですという言い方を、今の方もおっしゃいました。それを、書いていないけれど分かっているなど評価出来たとしても、これを見ると、評価してあげた

いところだけでも、提案書に書いていないのだから、著しく不良で1点ということになるということですね。

【中原会長】

基本的に、何でも補足で聞きたいから聞いているわけですよ。それを言えば全部そうだと思うのですが、一切書いてないということを、そこを特別扱いしないといけないのかなという確認をさせて頂きたいなと思ひまして。

【古田委員】

その確認ですと、5人によって、先生によって書き方は違うわけですよ。5点から1点までありますので。

【海老原委員】

書いていないと思う先生と、全体を見て何となくそうじゃないかと思う先生といるのではないのでしょうか。項目としては無いけれど、こういうことが言いたいんだなと読み取るという場合もありますし。項目によっては、書いていないという認識をするのが難しい項目というのもあると思います。

【古田委員】

それも、聞いたから分かったのであって、聞かなかつたら書いていないというのは明確ですよ。本来ならば、我々は項目を立てて欲しいから書いているわけですから。

【海老原委員】

そこを書いていると取るのか取らないのかですが。

【芦田副会長】

書いたと取るか取らないかは、我々の判断ということですね。

【中原会長】

最初の話に戻りますが、資料に書いてないからゼロ点にはならないということですね。

【事務局】

著しく不良ということであれば1点。海老原委員が言われたように、全体的な部分、総合的に見てある程度読み取れるという判断が出来た場合には、少しずつ加点の対象になってくるかもしれないです。

【中原会長】

その全体の主旨も含め、且つ質問に対して、あくまで補足で説明されたというのを含め、そこも含めて各自判断ということですね。

【事務局】

基本、市としては、募集要項なり仕様書の中で必要な事項は盛り込んでいますので、そこを踏まえて提案書に反映していただかないといけませんので、そこが提案書に書かれていない部分については、たとえば減点対象にはなってくるかと思います。そこは全体を見て頂いて、ある程度、元々の仕様や募集要項で求めている内容を読み取れるということであれば、そこを考慮して点数を付けていただくということになるかとは思いますが。

【中原会長】

承知しました。それでは、最後に案件（４）「採点について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

採点の考え方につきましては、今、色々とお話しも出ましたが、冒頭に事務局からご説明させていただきましたとおり、審査項目ごとに配点内で採点いただきます。採点にあたり、時間が必要ということがございましたら、大変お荷物になるかとは存じますが、関係資料をお持ち帰りいただき、評価いただいた採点表、評価コメントをメールにてご提出いただきたいと存じます。期限につきましては、事務処理手続きの都合上、大変短く恐縮ですが、3月4日(月)正午までに事務局に届きますようお願いいたします。また、本日、資料一式をお持ち帰りいただく場合につきましては、返信用封筒をお渡ししますので、大変お手数をおかけいたしますが、事務局に返送いただきますようお願いいたします。なお、採点表・評価コメントは、事務局にて取りまとめ、次回の第3回審査会において、採点結果の集計、取りまとめた評価コメント（案）を提示させていただきたいと考えています。説明は以上でございます。

【中原会長】

ただいまの説明に対して、委員の皆さんからご質問、ご意見等はありませんか。

【古田委員】

様式9と10のデータは送っていただいていたか。

【事務局】

本日、帰られてからご記入いただく方には、この後、それぞれエクセルとワードのデータをお送りさせていただきます。

【中島委員】

この冊子は3社分とも返却するということですか。どこか受注されて、ハローワークと調整するとおっしゃっていた件が多々ありましたので。

【事務局】

次年度、またその時にお渡しさせていただきます。

【中原会長】

その他はご意見、ご質問ありますか。

(意見、質問なし)

【中原会長】

では続きまして、案件（５）「その他」について、事務局から何かありますか。

【事務局】

次回の審査会は、3月13日（水）10時よりオンラインにて開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。詳細については、また改めてご案内させていただきます。

【中原会長】

本日の案件はすべて終了しました。以上をもちまして、令和5年度第2回雇用推進事業者選定審査会を閉会します。皆様、活発な議論をいただきありがとうございました。

以上